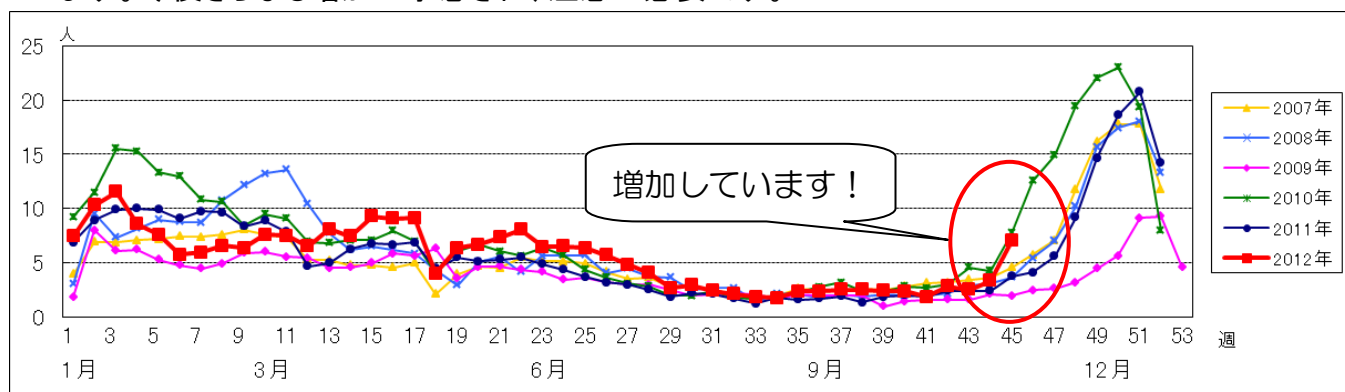


## 感染性胃腸炎の報告が急増しています

- ◇ 横浜市では 11 月に入り、感染性胃腸炎の報告数が急激に増加しています。特に、都筑区では既に警報レベルとなっています。
- ◇ 感染性胃腸炎は、ノロウイルスなどの感染が原因で、下痢、腹痛、吐気、嘔吐などを主症状とする冬季に流行する疾患です。
- ◇ 予防には手洗いや、便や吐物の適切な処理と次亜塩素酸を用いた消毒、食品の十分な加熱が重要です。

### 患者発生状況（感染症発生動向調査）

横浜市内の感染性胃腸炎の第 45 週(11 月 5～11 日)での定点\*あたりの報告数が 7.00 となり、3 週連続で増加しています。区別では、都筑区で定点あたり 20.00 と警報レベル(20.00 以上)となり、次に港北区 12.00、西区 11.00、神奈川区 10.20 と報告が多くなっています。特に乳幼児に多く発生しています。今後さらなる増加が予想され、注意が必要です。



※定点あたり報告数・・・定期的に患者発生状況を報告していただいている医療機関（市内約 90 か所）を定点医療機関といい、そこから報告された患者数の平均値です。

### ノロウイルスの予防方法

- ◆ 予防には手洗い、便や吐物の適切な処理と消毒、食品の十分な加熱が重要です。ノロウイルスの消毒には次亜塩素酸による消毒が有効です。  
○次亜塩素酸の詳しい使用方法是こちら<http://www.city.yokohama.lg.jp/kenko/eiken/punf/pdf/noro-yobou.pdf>
- ◆ 患者さんの便や吐物を処理する時は、使い捨て手袋、マスク、エプロンを着用し、処理後は石けんと流水で十分に手を洗いましょう。また、吐物の処理に際してノロウイルスが空気中に浮遊する危険があるため、十分な換気が重要です。
- ◆ カキなどの二枚貝等を調理するときは、中心部まで十分に加熱しましょう。（中心温度 85℃、1 分以上の加熱が必要です）

### 学校保健安全法での取り扱い

学校保健安全法では、出席停止について特に明確に定められた疾患ではありません。登園・登校は、嘔吐・下痢がおさまるなど、患者さんの体調をもとに医師に相談して判断しましょう。

症状が消失した後も、しばらくは便の中にウイルスが排出される可能性があるため、回復後も手洗いが大切です。